

橋梁塗装塗替工特記仕様書

令和 6 年 4 月 1 日 改 正

目 次

第 1 章	総 則	2
第 1 条	適用範囲	2
第 2 条	一 般	2
第 2 章	材 料	2
第 3 条	一 般	2
第 4 条	塗 色	2
第 3 章	施 工	2
第 5 条	一 般	2
第 6 条	跨線橋及び跨道橋	2
第 7 条	足 場	2
第 8 条	塗装仕様	2
第 9 条	塗装記録	2
第 10 条	塗 膜 厚	3
第 11 条	施工写真	5
第 12 条	書 類	6
第 13 条	部材の損傷等	6
第 4 章	検 査	6
第 14 条	段階検査	6
	塗替塗装仕様・素地調整種別	7

第 1 章 総 則

(適用範囲)

第 1 条 橋梁塗装のうち、塗替工に適用する。

(一 般)

第 2 条 本仕様書に記載のない事項については、「横浜市土木工事共通仕様書」を適用する。

第 2 章 材 料

(一 般)

第 3 条 請負人は、設計図書に指定された規格品を使用しなければならない。

また、工事着手前に色見本を提出し、事前に監督員の承諾を得なければならない。

(塗 色)

第 4 条 請負人は、2 層以上の下塗り塗装については、それぞれ異色の塗料を使用しなければならない。

第 3 章 施 工

(一 般)

第 5 条 請負人は、安全性に留意し、他の施設に損傷を与えぬよう施工しなければならない。

また、塗料が付近構造物及び地域へ飛散しないよう、防止しなければならない。

(跨線橋及び跨道橋)

第 6 条 請負人は、跨線橋の塗装については、鉄道事業者の施工承諾を得なければならない。

また、横浜市以外の道路管理者が管理する道路上に架かる跨道橋についても同様とする。

なお、承諾方法については、監督員の指示によらなければならない。

(足 場)

第 7 条 請負人は、足場を設置する場合、橋梁構成部材の剛性を考慮してチェーン等の吊り下げ材料を固定しなければならない。特に高欄を利用して吊り下げ材料を設置する場合は、束柱の最下端に固定しなければならない。また、橋梁添架物件を利用して吊り下げ材料を固定してはならない。

(塗装仕様)

第 8 条 塗料の単位使用量、塗装間隔、目標膜厚等については、別添の塗装仕様による。

(塗装記録)

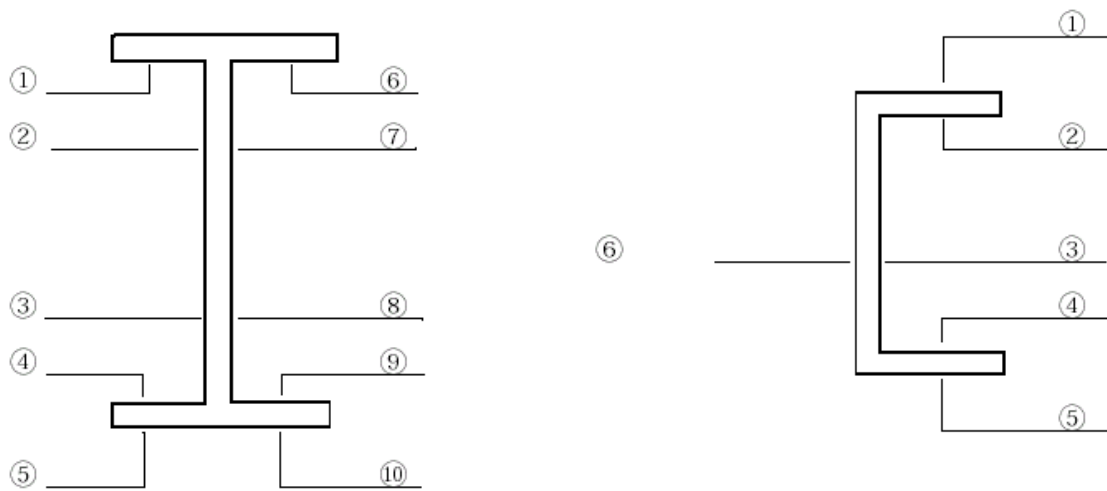
第 9 条 請負人は最終塗装が完了した後、主げたに「塗装記録」及び「橋梁名」を表示しなければならない。ただし、けた高が低く、塗装記録が表示できない場合

は監督員の指示によらなければならない。

(塗膜厚)

第10条 請負人は、次により塗膜厚の測定を実施しなければならない。塗膜厚測定は施工する全橋梁において実施するが、小橋梁あるいは延長の短い高欄等については、監督員の承諾を得て一部又は全部を省略することができる。

- (1) 測定は、各層終了時に行う。
- (2) 測定位置及び位置数については、写真撮影位置と同一とする。
- (3) 各測定位置における測定点は、各位置の部材の一断面の全周にわたって測定する。測定点の取り方の例を次に示す。



[型 鋼]
測定値 = (~) / 10

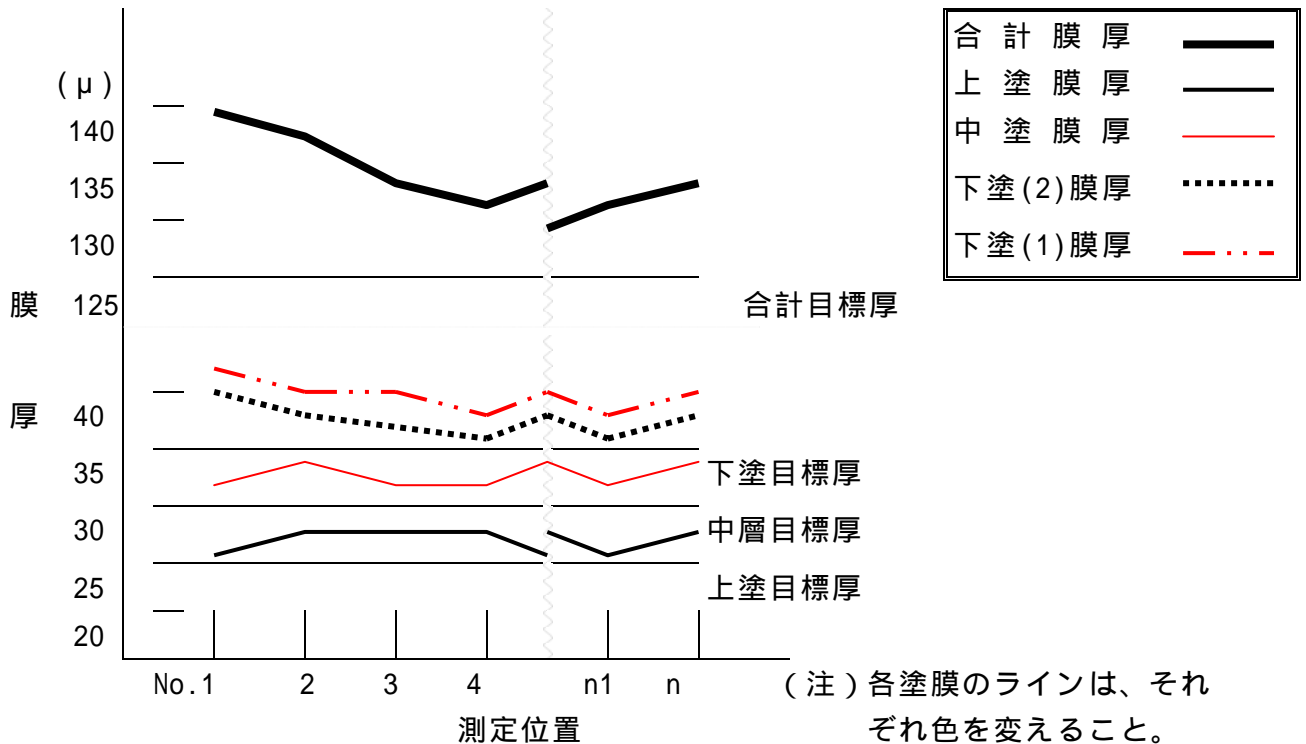
[チャンネル]
測定値 = (~) / 6

- (4) 測定結果は、表及びグラフで表示する。必要に応じてヒストグラムも使用する。表及びグラフの例を次に示す。

塗膜厚測定表

工 事 名		橋外 橋塗装工事										橋 梁 名		橋		
請 負 人		塗装株式会社						現場代理人				測定者				
箇所	種 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	膜厚	目標厚	目標厚	
		(μ)										(μ)	(μ)	(μ)	との差	
No.1	施工前	5	0	10	5	10	0	5	5	5	5	5				
	下塗(1)	40	40	50	45	55	40	45	50	50	45	46	41	35	+ 6	
	下塗(2)	80	80	85	85	95	80	80	90	90	95	86	40	35	+ 5	
	中 塗	115	110	115	120	130	115	110	125	130	130	120	34	30	+ 4	
	上 塗	130	135	140	145	155	140	135	155	160	155	145	25	25	0	
No.2	施工前	5	5	10	5	10	5	5	5	5	5	6				
	下塗(1)	40	45	50	45	45	40	50	45	45	45	45	39	35	+ 4	
	下塗(2)	75	80	90	85	90	75	90	80	85	80	83	38	35	+ 3	
	中 塗	110	110	125	120	125	110	125	120	120	115	118	35	30	+ 5	
	上 塗	140	135	150	145	155	140	140	150	150	150	145	27	25	+ 2	
	施工前	0	5	5	5	10	0	5	10	5	5	5				

塗膜厚測定グラフ



(施工写真)

第 11 条 請負人は、次により施工写真の撮影及び写真帳の作成をしなければならない。

なお、請負人は、施工状態を的確に表現できるよう撮影しなければならない。

(1) 施工写真の撮影

ア 撮影位置数は、次の範囲で設定する。

塗装面積による撮影位置数 (1 橋当たり)

塗 装 面 積	撮 影 位 置 数
200 m ² 未満	3 ~ 5 箇所
200 m ² ~ 1,000 m ²	6 ~ 10 箇所
1,001 m ² ~ 2,000 m ²	11 ~ 20 箇所
2,001 m ² 以上	15 箇所以上

(注) 表中の撮影位置数は高欄部を含まない。

高欄部の撮影位置数 (1 橋当たり)

全 高 欄 長	撮 影 位 置 数	備 考
60 m未満	1 ~ 3 箇所	
60 m以上	4 箇所以上	$X = \text{撮影位置数、} L = \text{全高欄長 (m)}$ $X = 4 + (L - 60) / 20$ (小数点以下切り上げ)

イ 撮影位置の設定にあたっては監督員の承諾を得て、次により撮影する。

(ア) 橋梁塗装面のうち、外げた・支承まわり等錆発生 of 著しい箇所及び錆発生が予想される箇所を優先して撮影位置を設定する。

(イ) けた等部材については、設定位置ごとに1断面を撮影する。

(例) 型断面の場合、両側ウェブ、上フランジ下面、下フランジ両面をそれぞれ撮影する。

(ウ) 撮影は各工程ごとに同位置、同方向より行い、撮影位置にはカードを吊り下げるなど位置の変動がないようにする。

ウ 撮影順序は次のとおりとする。

(ア) 現 況

指定の位置及び橋全景を撮影する。

(イ) 足 場

足場全体が写るよう撮影する。

(ウ) ケレン終了後

指定の位置を撮影する。

(エ) 下塗り終了後

指定の位置を撮影する。2層施工の場合、各層ごとに撮影する。

(オ) 中塗り終了後

指定の位置を撮影する。

(カ) 上塗り終了後

指定の位置及び橋全景を撮影する。

エ 各工程の作業中及び使用材料が確認できる写真、工事標示板等の安全施設の写真等必要な写真を随時撮影する。

(書 類)

第12条 請負人は「しゅん功図」及び「塗装面積計算書」を作成しなければならない。ただし、監督員の指示がある場合は、一部又は全部を省略することができる。

(部材の損傷等)

第13条 請負人は、施工中に橋梁構成部材及び構造物の損傷、添架物件の異常等を発見した場合は、直ちに監督員に報告し、その指示を受けなければならない。

第4章 検 査

(段階検査)

第14条 請負人は、次の段階検査を受けなければならない。

(1) 材料検査

(2) ケレン検査

(3) 各層塗装検査

(4) その他、監督員が指示した検査

塗替塗装仕様

令和6年4月改正

塗装系	素地調整	下塗り	間隔	下塗り	間隔	下塗り	間隔	中塗り	間隔	上塗り
Rc-Ⅱ	2種ケレン	有機ジंकリッチペイント 240g/㎡ ※1 標準膜厚 30μm (鋼板露出部のみ)	1日~10日	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm	1日~10日	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm	1日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 140g/㎡ 標準膜厚 30μm	1日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 120g/㎡ 標準膜厚 25μm
Rc-Ⅲ	3種ケレン	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm (鋼板露出部のみ)	1日~10日	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm	1日~10日	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm	1日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 140g/㎡ 標準膜厚 30μm	2日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 120g/㎡ 標準膜厚 25μm
Rc-Ⅳ	4種ケレン					弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 200g/㎡ 標準膜厚 60μm	1日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 140g/㎡ 標準膜厚 30μm	1日~10日	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 120g/㎡ 標準膜厚 25μm
Ra-Ⅲ	3種ケレン	鉛・クロームフリーさび止めペイント 140g/㎡ 標準膜厚 35μm (鋼板露出部のみ)	1日~10日	鉛・クロームフリーさび止めペイント 140g/㎡ 標準膜厚 35μm	1日~10日	鉛・クロームフリーさび止めペイント 140g/㎡ 標準膜厚 35μm	1日~10日	長油性フタル酸樹脂塗料中塗 120g/㎡ 標準膜厚 30μm	2日~10日	長油性フタル酸樹脂塗料上塗 110g/㎡ 標準膜厚 25μm

適用範囲

Rc-Ⅱ	さび面積が30%以上で、旧塗装がB、b及びc系に採用する。
Rc-Ⅲ	Rc-Ⅱ、Rc-Ⅳ及びRa-Ⅲ以外の塗り替えに採用する。
Rc-Ⅳ	旧塗膜に欠陥がなく、美観を改善することを目的とするために採用する。
Ra-Ⅲ	A系塗装系の塗替えて十分な塗膜寿命を有していて、橋梁の残存寿命が20年程度の場合に採用する。

素地調整種別

(素地調整から下塗りまでの塗装間隔：4時間以内)

素地調整種別	さび面積	塗装異常面積	作業内容	作業方法
2種	30%以上	—	旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させる。 ただし、さび面積30%以下で旧塗膜がB、b塗装系の場合は、ジंकリッチプライマーやジंकリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去する。	ディスクサンダー、ワイヤホイルなどの電動工具と手動工具との併用
3種A	15%~30%	30%以上	活膜は残すが、それ以外の不良部(さび、割れ、ふくれ)は除去する。	同上
3種B	5%~15%	15%~30%	同上	同上
3種C	5%以下	5%~15%	同上	同上
4種	—	5%以下	粉化物、汚れなどを除去する。	同上

※1：素地調整程度2種ではあるが、健全なジंकリッチプライマーやジंकリッチペイントを残し、ほかの旧塗膜を全面除去した場合は、鋼材露出部のみ有機ジंकリッチペイントを塗布する。この際、使用量の目安は240g/㎡程度とする。素地調整程度2種で旧塗膜を全面除去した場合は、有機ジंकリッチペイントの使用量が600g/㎡(はけ・ローラー塗りの場合300g/㎡×2回)、標準膜厚75μmとする。